

# 社会へ～初めの第一歩～

兵庫県立西宮南高等学校 校長 浅場 正宏  
主幹教諭 近藤 和弘

## 1. はじめに

今年度初めてNIE事業の指定を受けた。狭義の学力とは違う視点で、この教養社会という授業を行った。世界、社会で何が起きているのか、ということに少しでも関心を持つきっかけになればと考え、授業を展開した。

まず、初めて担当する学年の生徒であったため、アンケートをとった。

現在起きている問題に対して、関心を持っている内容は多岐にわたっていた。しかし、いずれも表面的理解にとどまっていた。さらに、受講生徒8名中4名が新聞を定期購読していたが「ほぼ毎日読む」と答えたのは2名のみであった。

このような生徒に対して、この授業を通して読解力を養い、課題解決・疑問解消の方法の習得を意図した。また、考察した内容のプレゼンテーションによって表現力を向上させることを目的とした。

## 2. 実践の概要

### (1) 取り組みの領域

- ① 3年生の総合的な学習の時間(1単位)で実施した。
- ② 1年生全体で取り組んでいるディベート学習の基礎資料として活用した。
- ③ 学校全体で取り組んでいる人権学

習のレポート作成のための資料として使用した。

今回は特に①について報告する。

### (2) 提供期間

平成28年度、本校はNIEの指定を受け、9月から12月までの4ヶ月間朝日、神戸、産経、毎日、日本経済、読売の6紙の提供を受けた。

1学期間は新聞に関心が持てるように授業を組み立てた。

### (3) 1年間のプログラム

- ① 新聞の構成
- ② コラム学習
- ③ 社説学習
- ④ 自分社説

## 3. 新聞の置き場と新聞当番制

### (1) 設置場所

本校では図書室がA棟(管理棟)にある。生徒の教室棟からは離れ、階も異なる。このため、登下校時に大半の生徒が通るピロティに新聞フォルダーを新たに設置した。

### (2) 新聞当番

生徒の実態から、受講生徒自身が新聞を手にする機会を少しでも増やすため、1週間(火曜~翌週月曜)の当番制を導入した。一日の新聞の流れは以下の通りである。



- ① 事務室前にN I E 専用新聞ボックスを置く。
- ② 事務職員に依頼し、昨日の夕刊、当日の朝刊を入れていただく。
- ③ 当番の生徒は登校次第新聞ボックスから生徒用新聞掛けに付け足す。
- ④ 1紙につき新聞掛け1本とする。
- ⑤ 各紙、朝刊、夕刊、朝刊と重ねていき前面を最新のものとする。
- ⑥ 受講生徒は気になった記事に付箋を付けておく。
- ⑦ 当番を引き継いだ火曜日に1週間分の付箋のついている新聞を教室に持ってくる。
- ⑧ 自分の付箋の記事を切り抜く。
- ⑨ 使い終わった古新聞を各新聞社の保管用ボックスに入れる。1週間は保管し全校生徒の誰でもが切り抜き、持ち帰れるようにした。
- ⑩ 保管用ボックスに入っている2週間前の古新聞を校務員室に運ぶ。

#### 4. 実践の内容

最初の授業では、日頃新聞を手にし

ない生徒が多かったので、現物を提示し、「主見出し」「袖見出し」「カット見



出し」「リード文」等を説明した。

さらに、生徒たちに以下の年間予定を伝えてスタートした。

##### (1) コラム学習

まず、新聞になれるため、取り組



みやすいコラムを教材とした。内容は以下の通りである。

##### ① 1分間の書き写し

コラムを3分間記憶した後に記述し、正確に何文字書けるかを競う。

##### ② コラム書き写し

コラムを15分間でどこまで写せるかを競う。

### ③ 段落整序

コラムを段落ごとでバラバラにして意味が通るように並び替える。その後、二人で正解を考える。さらに、四人で正解を考えた後、全員で正解原案を作る。そして担当者が正解を発表する。

### ④ ワークシート作成

コラムに自分なりのタイトルを付ける。言葉調べ、段落要旨、全体要旨、意見、感想を記入する。このワークシートをもとにプレゼンを行う。聞いている生徒は相互評価を行う。

## (2) 社説学習



コラム学習の取り組みを社説に準用した。

### (3) 夏季課題

定期考査後から取り組めるように、夏季課題として自分で8本の新聞記事を切り抜き、授業で行った方法でプレゼンシートを作成することとした。

### (4) 壁新聞の作成

8本の夏季課題のうち、特に関心

のある記事について、壁新聞を作成した。

### (5) 自分社説

1年間のまとめとして関心を持っている話題、問題について、自分なりの考えをまとめた。これが、1200



字程度の「自分社説」である。作成にあたっては単なる個人的感想とならないために、たしかな論拠について自分が切りためていた新聞記事を引用、参考にするものとした。

#### ① ディベートできっかけ作り

いきなり書き始めることは困難であるため、以前に対象生徒が取り組んだディベートの内容を取り上げ自由に討論した。

#### ② 論文構成のポイント

論文の骨格を作るために例として、各段落の書き出しを提示して書き始める。

#### ③ 紙原稿の提出・プレゼン

自分社説の紙原稿を提出した。担当者が人数分コピーして生徒に配付した。授業で今まで通りみんなの前でプレゼンし、質問に答える形で内

容を深めた。

#### ④ 入力

できあがった紙の原稿を生徒個人のUSBに入力する。その際、パソコンを所有していない生徒については本校図書室のパソコンが使用できるように配慮した。なお、入力する書式については統一性をもたせるため、担当者が指定した。

#### ⑤ 校正

打ち出したものを友人とペアになり相互に校正作業を行った。この作業で、友人の間違いを発見し、さらに自分の原稿を再確認することができた。

#### ⑥ 完成

できあがったものを担当者が、3年生の自宅学習期間に最終校正を行い、卒業式に完成版として受講生全員に友人のものも含めて配付した。



### 5. 実践の感想と今後の課題

普段新聞を目にする機会の少ない生徒たちであったが、各授業の開始時に、学習内容とは直接関係のない昨日や当日朝

のニュースが「雑談」としてたびたび話題にあがるようになった。

来年度は、今年度実施した3年生の総合的学習に加えて、2年生の総合的な学習の時間においても、実施する予定である。

さらに、1年生の現代社会においても投げ込み教材として活用できる可能性は大いにあると考えられる。

新聞の置き場所は全校生徒に認識されるようになったので、来年度は実際に新聞を手にとって読む生徒が増えるように環境の工夫・改善が必要である。

3年生においては小論文試験の対策としても位置付ける事ができれば生徒の可能性も広がると考えられる。

この授業を通して、同学年とはいえあまり交流のなかった生徒がプレゼンの相互評価、意見発表に対する質問、一つの課題の取り組みを通じて、他人の意見に耳を傾け、自分の意見を表現する力がついたように思う。

来年度は購読期間は通年となるので、1年間を見通しながら継続的に計画を立て、この事業を発展させていきたい。

